

# 生徒の表現力を高める指導の工夫について

秋田県立秋田南高等学校 教諭（兼）教育専門監 深沢 志保

本校では、コミュニケーション英語Ⅰにおいて、リテリングや考える活動を中心にした指導を行っている。内容や文法に関する説明をできるだけ少なくし、生徒が自ら英語を発話したり、自分の考えを表現したりする機会を多くする工夫について述べたい。併せて、英語表現Ⅰにおけるパフォーマンステストについても以下に述べる。

## 【コミュニケーション英語Ⅰ】

### 1. 単語の導入は、なるべく絵や状況説明で

今までは、絵を示すためにプリントアウトした紙を使用していたが、パワーポイントを使用すると手軽にきれいな絵や写真を見せることができるため、今年度からパソコンを使用することになった。生徒も視覚的に意味を理解することができるため、効果的である。



新出語導入のスライド

### 2. 内容理解は選択肢やT/Fで

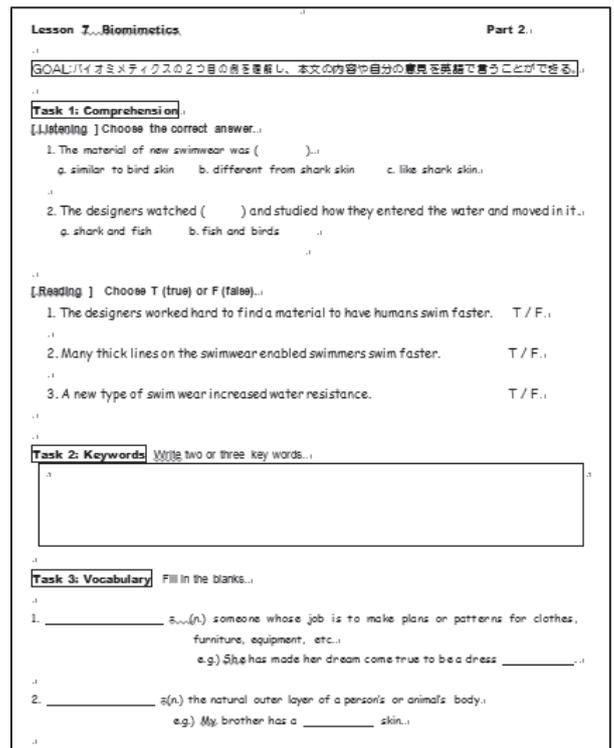
生徒の活動を多くするため、内容理解は大まかな内容をとらえる程度とし、説明が必要な箇所は構文や文法を扱う時間にまとめて行っている。

### 3. キーワードを考えさせる

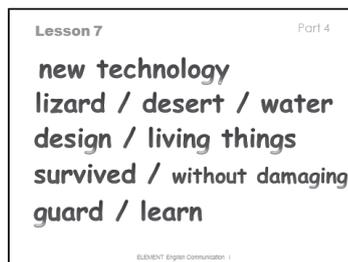
内容理解と単語の導入後、英文を読んでキーワードを2～3語考えさせる。以前はこちらから与えていたが、生徒に考えさせると、内容の要点をつかもうと積極的に読む姿勢が見られ、また、それほど外れた単語を選ぶことはないため、この活動を取り入れている。

### 4. キーワードや絵を使ったリテリング

一通り内容把握が終わったところで、サマリーの穴埋めをさせる。本文の内容をパラフレーズした英語に触れさせたり、リテリングの際、苦手な生徒はこのサマリーを利用して活動することができたりするように、というのが狙いである。そして、キーワードを見ながら内容を伝えたり、絵や写真を見て内容を思い出しながら自分の言葉で伝えたりする活動を、相手を代えながら何度か行う活動をしている。時間制限を設けて数回チャレンジさせることで、達成感を味わわせるように心がけている。右記のスライドにはキーワードが示してあるが、この数を徐々に減らして難易度を上げていくと、



ハンドアウト例



リテリング用キーワード



リテリング用写真

生徒のチャレンジ精神をくすぐるようだ。

また、つまづいている箇所を確認したり、尻切れトンボになりがちな最後の部分を重点的に練習させたりと、できないところをそのままにしない工夫もしている。そして、サマリーの活動まで最低5回は本文を聞いたり読んだりすることになるうえ、リテリングの際に要点をつかもうと本文を読んでいるため、活動を通して本文に繰り返し触れさせることができる。

### 5. 内容について深く考えさせる

英語は4技能と言われているが、thinking も行ってこそ豊かな自己表現につながる。そのため、パートごとに内容について考える活動を取り入れている。例えば、バイオミメティクスの授業では、Q: A new type of swimwear helps athletes break world records. What do you think about it? という質問や、自分なら生物のどんな特徴を使ってどんな製品を作るか、ということについてグループで話し合いをした後に発表をし、一番良いものを選ぶという活動も行った。製品の例としては、暗闇でも目が見えるコウモリの特徴を生かした特殊なコンタクトレンズや、アメンボの足の性質を利用した水上を歩ける靴、カメレオンの周囲の色に合わせて変えることができる性質を利用したコートなど、様々なアイデアがあり、指導する側にとっても非常に楽しい活動となった。

Class: T- No. Name: \_\_\_\_\_

**Task 4: Retelling** Fill in the blanks and retell the story.

Part 2



Designers of ( ) created a new material, which enabled swimmers to swim ( ) than ever.  
These ( ) were designed by learning from ( ) such as fish and birds.

**Task 5: Express yourself** Add one or two sentences at the end of retelling.

Q: A new type of swimwear helps athletes break world records. ...  
What do you think about it? ..

What does (do) your partner (group members) think? ..

Self-evaluation

1. バイオミメティクスの2つめの例を説明することができた。	A	B	C
2. 内容や自分の意見や英語で書けること (retelling) ができた。	A	B	C
3. コメント・今後の目標			

ハンドアウト例 (サマリー、thinking、自己評価)

### 6. 自己評価、振り返り

授業中の自分の学びがどうであったかを自己評価することで、客観的に学習を見つめることができる。バイオミメティクスの授業後の振り返りを見ると、「世界記録を更新することには、選手だけではなく、技術者も関わっていることがわかった。」「生物を模倣した製品について、自分が思いつかなかったいろんなアイデアがあって楽しかった。」というように、本文の内容に関するものへの言及がある一方、「リテリングをする際に、a・the のような冠詞や、前置詞にも注意して言えるようになりたい。」「内容をできるだけ自分の言葉で簡単に言えるようになりたい。」「もっとすらすら読んだり言えたりするように、語彙を増やしたい。」というような、英語学習に対する目標も見られ、自ら学習する意欲につながっている記述も見受けられた。振り返りが自律的な学習へとつながることもねらいとしている。

#### 【英語表現 I : パフォーマンステスト】

1年に2回行ったが、6月の Show and Tell では、自分の持ち物や趣味について実物を見せながら紹介するスピーチを行った。そして、2月にはそれまで

Self-evaluation.

\*4回目の発表を自己評価しよう。 ..  
\*A: よくできた B: まあまあできた C: 改善の必要あり。 ..

1. Easy to understand	A	B	C
2. Eye contact	A	B	C
3. Moderate speed	A	B	C
4. Gestures	A	B	C
5. Voice pitch (声の高さ)	A	B	C

I think the best speakers are No. [ ] and No. [ ] ..

一理由は: ..

感想・コメント・今後の目標: ..

自己評価票

のまとめとして“**What I'm into now**”というタイトルで、自分の夢中になっているものを紹介し、聞き手に勧めるという目的でスピーチを行ったが、2度目としての成長を実感させるため、今まで学んだ文法事項を必ず一つ使用することを条件とした。大切なのは「達成感」であるため、留意しているのは、下書きを添削して生徒が自分の書いた英文に自信を持たせることである。そして、発表前にはできるだけ練習の時間を与え、さらに、本番ではグループを回って合計4回発表させることで、次第にスピーチが滑らかになっていく過程を経験させ、達成感を味わわせるようにしている。

また、評価の観点を最初に示して発表のポイントを与え、さらに自己評価によって客観的に自分の発表を分析させている。加えて**best speaker**を2名挙げさせ、その理由を書かせることでさらなる気づきを促している。生徒の記述を読むと、実際に自分でスピーチを体験しながらクラスメートの発表を見ることで、次はもっと上手になりたいという向上心につながっているものが少なくない。指導者が改善のポイントを教え込まなくても、生徒はこちらの期待以上に様々なことに気づくとわかり、自発的な学習につながっていくことを願っている。以下は、記述の抜粋である。

【感想・コメント・今後の目標】	【best speaker について】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しかったけれど、聞き手がうなずいてくれたり反応してくれたりしたから、安心して話せた。</li> <li>・4回目のスピーチではだいたい暗記して読むことができてよかった。声の高低にもう少し気を付ければよかったと思った。</li> <li>・今までで一番、笑顔でアイコンタクトをして発表できた。</li> <li>・もう少し落ち着いてゆっくり話せばよかった。難しかったけど、すごく楽しかった。</li> <li>・途中で忘れることもあったけれど、言葉をつなぎながら話し、ジェスチャーなども付け加えると伝わるとわかった。</li> <li>・簡単な文しか言えなかったのでもっと新しい文法を使いたい。</li> <li>・質問をしたかったけれど、英語でなんとかならいいのかわからないことが多かった。とっさに言えなかったのが悔しかった。</li> <li>・発音練習をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイコンタクトをしていて、大きな声で分かりやすく話していた。</li> <li>・元気がよかったし、内容に興味を持てた。</li> <li>・声が大きかった。</li> <li>・ほとんどの文を暗記していた。</li> <li>・わかりやすい単語が使われていた。</li> <li>・一方的にしゃべるだけでなく、物を詳しく見せたり、相手に問いかけをしたりしていたのでよかった。</li> <li>・周りを巻き込む形のスピーチが面白かった。</li> <li>・積極的に相手に伝えようとする姿勢があった。</li> <li>・内容が濃くて聞いていて楽しかった。終始、笑顔で話していた。</li> <li>・ただ読んでいるだけでなく、感情がこもっていたので、引き込まれた。</li> <li>・表情が柔らかかった。</li> <li>・道具を効果的に使っていた。</li> <li>・発音がよかった。</li> </ul>

### 【まとめ】

日々の授業で心がけていることは、生徒の言語活動量を増やすことである。なるべく説明を抑え、パワーポイント等を使って時間を節約することで、英語を読む、聞く、話す、書く活動を確保しようと工夫を重ねている。また、同じ活動でも段階的にハードルを上げていくことで、下位者にも上位者にも対応できるような工夫をし、それぞれがどこかの場面で達成感を感じることができるよう留意している。そのためには、生徒たちの反応を見つつ、時には立ち止まり、時には難しいタスクを課しながら、お互いに学び合う場面を作っていきたいと思う。英語学習を通じて生徒たちの眼が輝く瞬間を求めて、今後も試行錯誤を重ねていきたい。